

これからの“とちぎ”づくりに関する若者意向調査

報告書(概要版)

平成21年8月

栃 木 県

○目次

★ 調査の概要

- 1 “とちぎ”の現状評価（どのように感じているか）
- 2 将来居留意向（将来も“とちぎ”に住みたいか）
- 3 “とちぎ”の特色（他県に誇れるもの、魅力あるもの、自慢したいもの）
- 4 これからの望ましい「“とちぎ”の姿」
- 5 今後の社会情勢の変化等への関心
- 6 よりよい“とちぎ”づくりに向けた参加意向
- 7 経年変化

I 調査の概要

(1) 調査の目的

この調査は、「新しい総合計画」策定にあたり、その参考とするため、県内の高校生の意向を調査したものである。

(2) 調査項目

- 問1 “とちぎ”の現状評価（どのように感じているか）
- 問2 将来居留意向（将来も“とちぎ”に住みたいか）
- 問3 “とちぎ”の特色（他県に誇れるもの、魅力あるもの、自慢したいもの）
- 問4 これからの望ましい「“とちぎ”の姿」
- 問5 今後の社会情勢の変化等への関心
- 問6 よりよい“とちぎ”づくりに向けた参加意向

なお、問4と問6は、本年2月に実施した県民意向調査（5,000人対象）と同じ項目である。

(3) 調査の実施方法

対象者は、県内の高校（県立・私立を含む。）に在籍する2年生とし、学科や地域に配慮して26校（クラス単位で概ね1,000名を目標）を抽出し、各学校の協力を得て、平成21年6月に実施した。

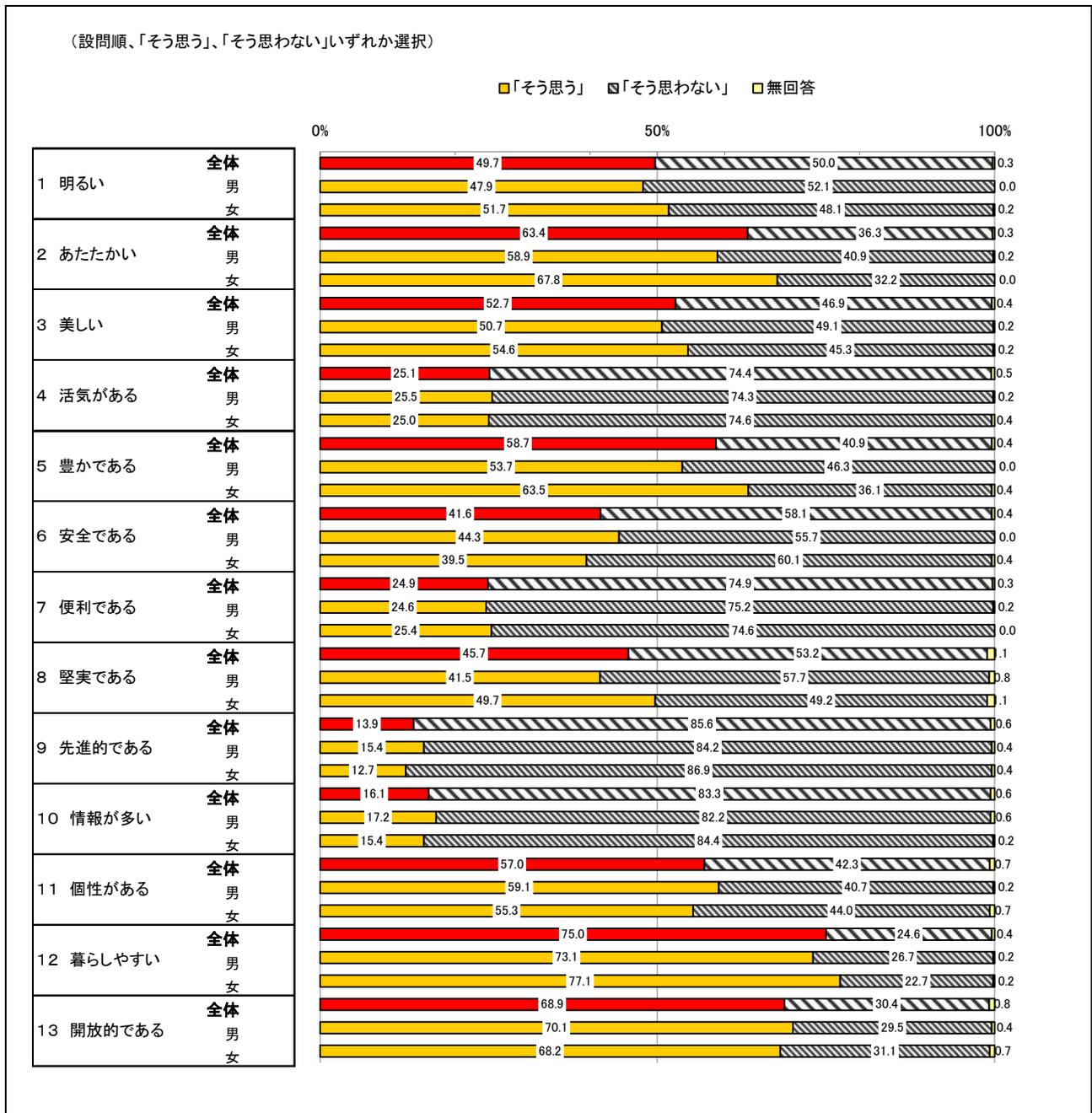
26校からの回収数は1,066件であった。

回答者内訳	[男女別構成]		[学科別構成]	
総回答数	1,066人	男性 501人 (47.0%) 女性 559人 (52.4%) 無回答 6人 (0.6%)	普通科 731人 (68.6%) 職業系専門学科 257人 (24.1%) 総合学科 71人 (6.7%) 無回答 7人 (0.6%)	

実施時期：平成21年6月

II 調査結果

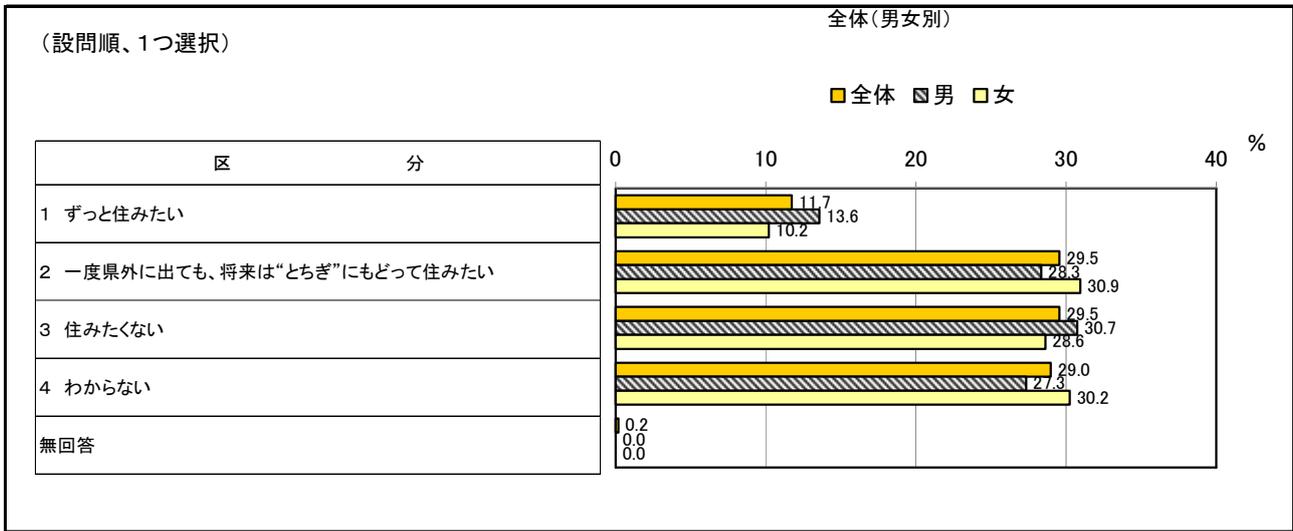
1 あなたは、いまの“とちぎ”をどのように感じていますか



「1 明るい」、「2 あたたかい」など、13 のイメージについて“とちぎ”を評価してもらったところ、「そう思う」が過半数を超える項目では「12 暮らしやすい」(75.0%)、「13 開放的である」(68.9%)、「2 あたたかい」(63.4%) が上位にあがっている。

一方、「そう思わない」が過半数を超える項目は7項目で、特に「9 先進的である」(85.6%)、「10 情報が多い」(83.3%)、「7 便利である」(74.9%)、「4 活気がある」(74.4%) について否定的であった。男女別で見ると、全般的に女性の方が“とちぎ”の現状に肯定的であることがうかがえる。

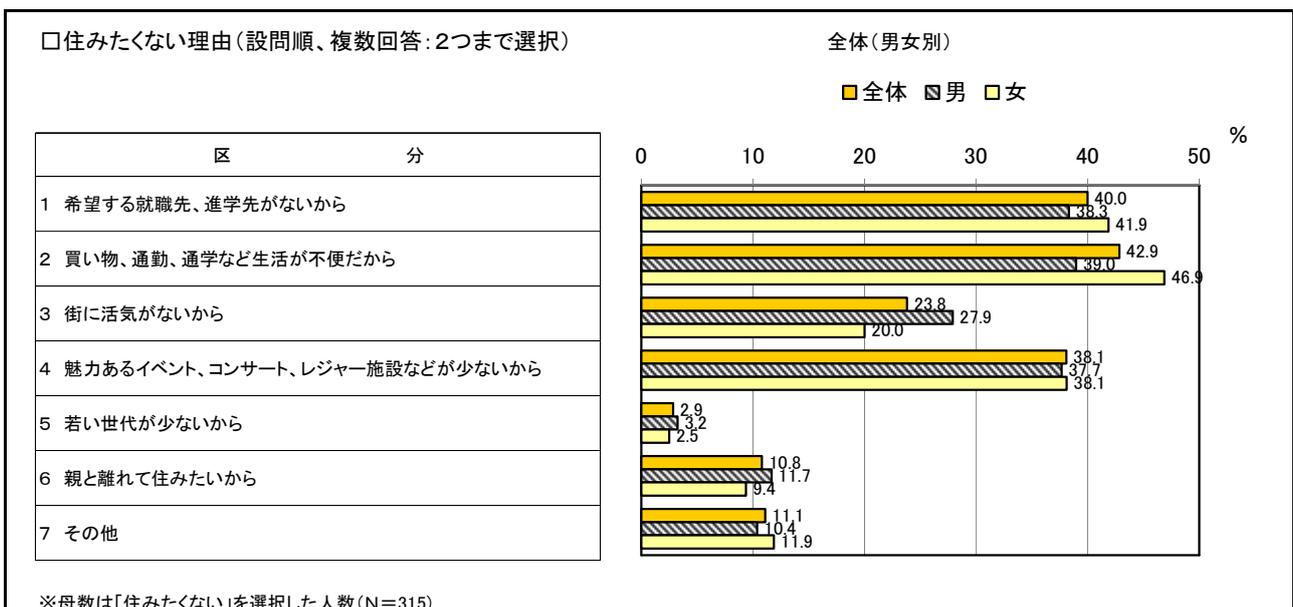
2 あなたは、将来“とちぎ”に住みたいと思いますか



全体で見ると「2一度県外に出ても、将来は“とちぎ”にもどって住みたい」と「3住みたくない」を選択した割合が29.5%と最も多く、次いで「4わからない」(29.0%)となっており、「1ずっと住みたい」は11.7%と最も少なかった。

また、“とちぎ”に住みたくないと回答した理由について聞いたところ、全体では「2買い物、通勤、通学など生活が不便だから」が42.9%と最も多く、次いで「1希望する就職先、進学先がないから」(40.0%)、「4魅力あるイベント、コンサート、レジャー施設などが少ないから」(38.1%)となっている。

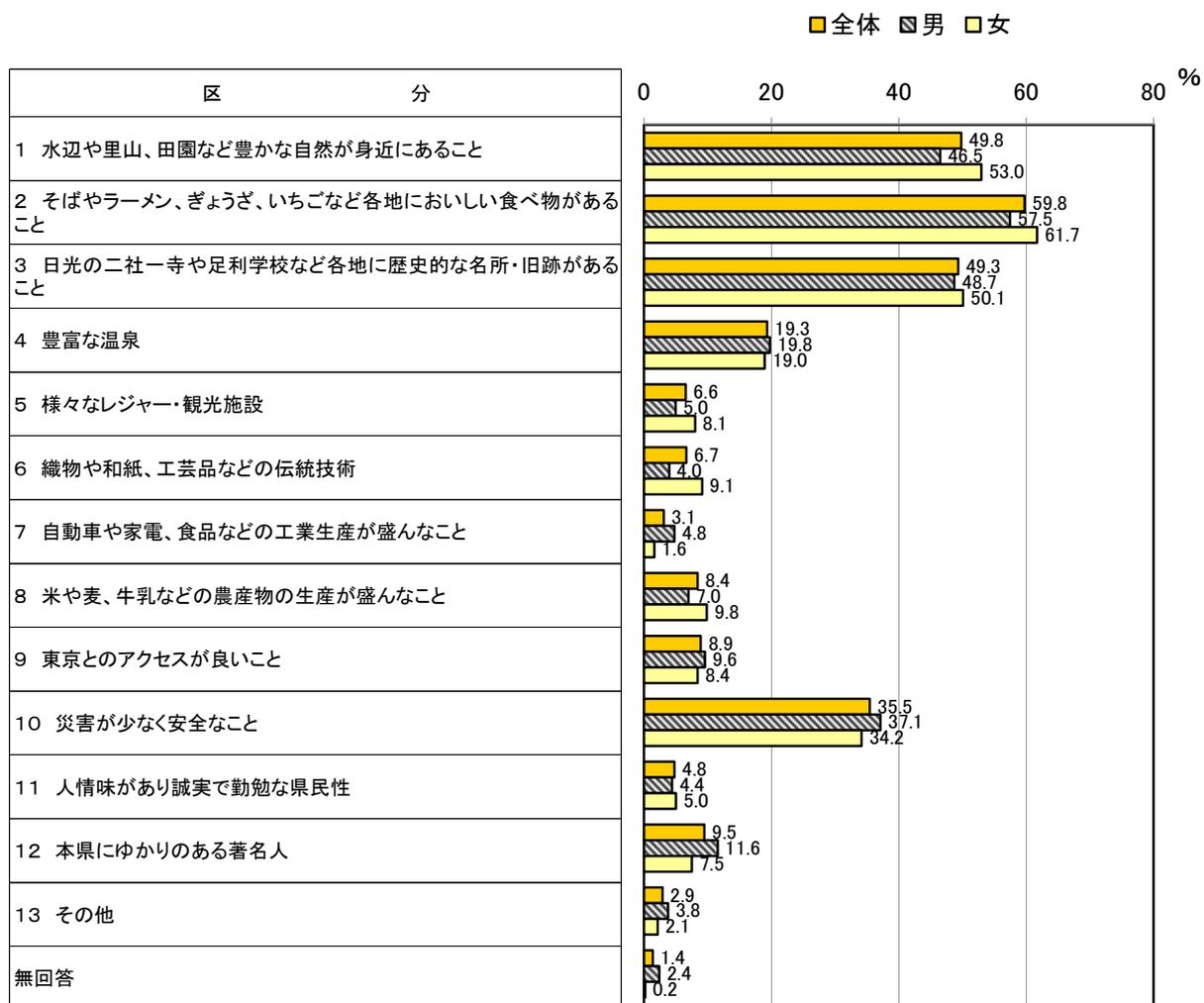
男女別では、「3街に活気がないから」を選択した男性が27.9%と女性の20.0%を上回っている。一方、「2買い物、通勤、通学など生活が不便だから」を選択した女性が46.9%と男性の39.0%を上回った。



3 “とちぎ”の誇れるもの、あるいは、魅力あるものとして、あなたが県外の人に自慢したいものは何ですか

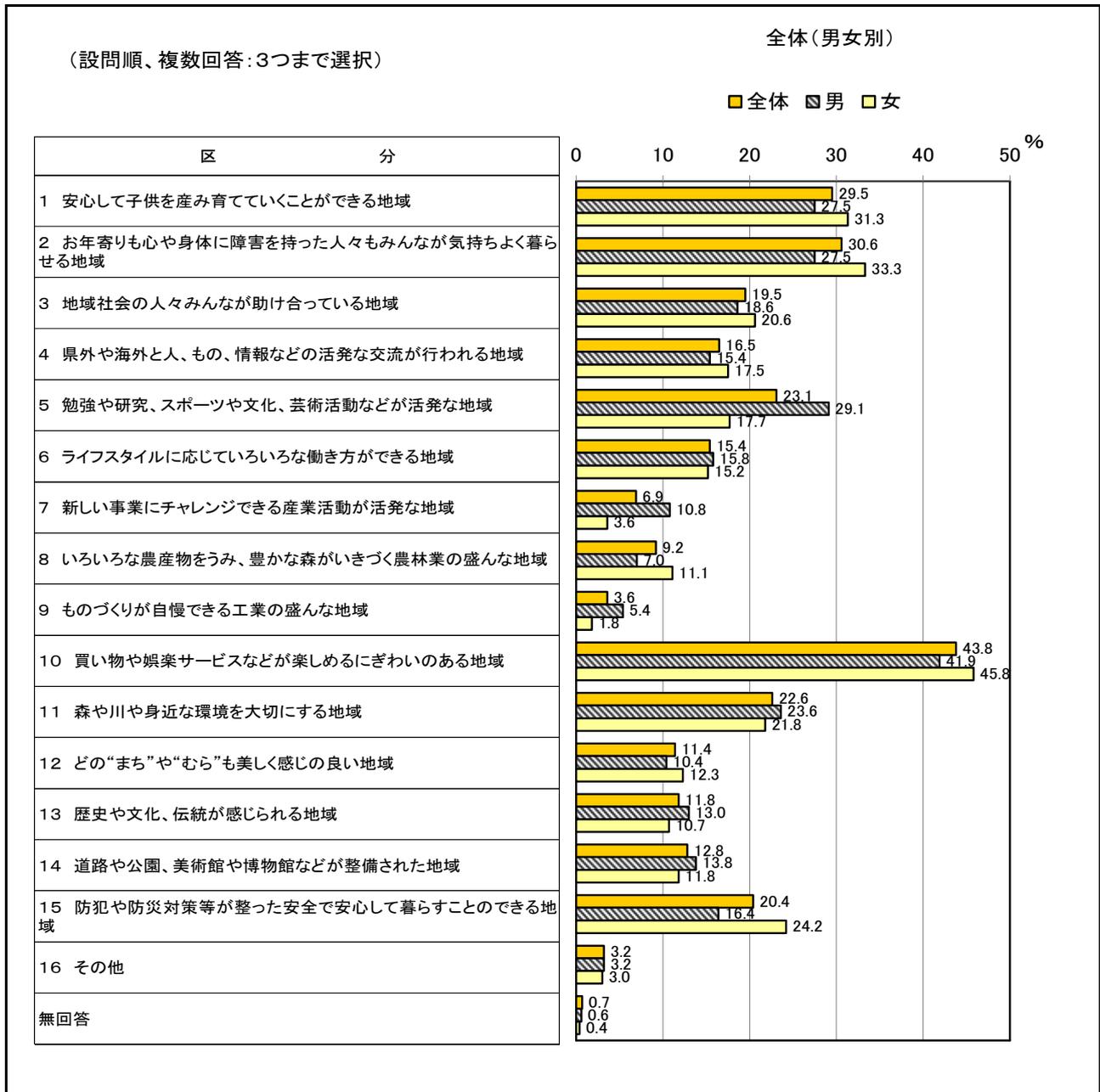
(設問順、複数回答:3つまで選択)

全体(男女別)



全体では「2 そばやラーメン、ぎょうざ、いちごなど各地に美味しい食べ物があること」が59.8%と最も多く、次いで「1 水辺や里山、田園など豊かな自然が身近にあること」(49.8%)、「3 日光の二社一寺や足利学校など各地に歴史的な名所・旧跡があること」(49.3%)となっている。

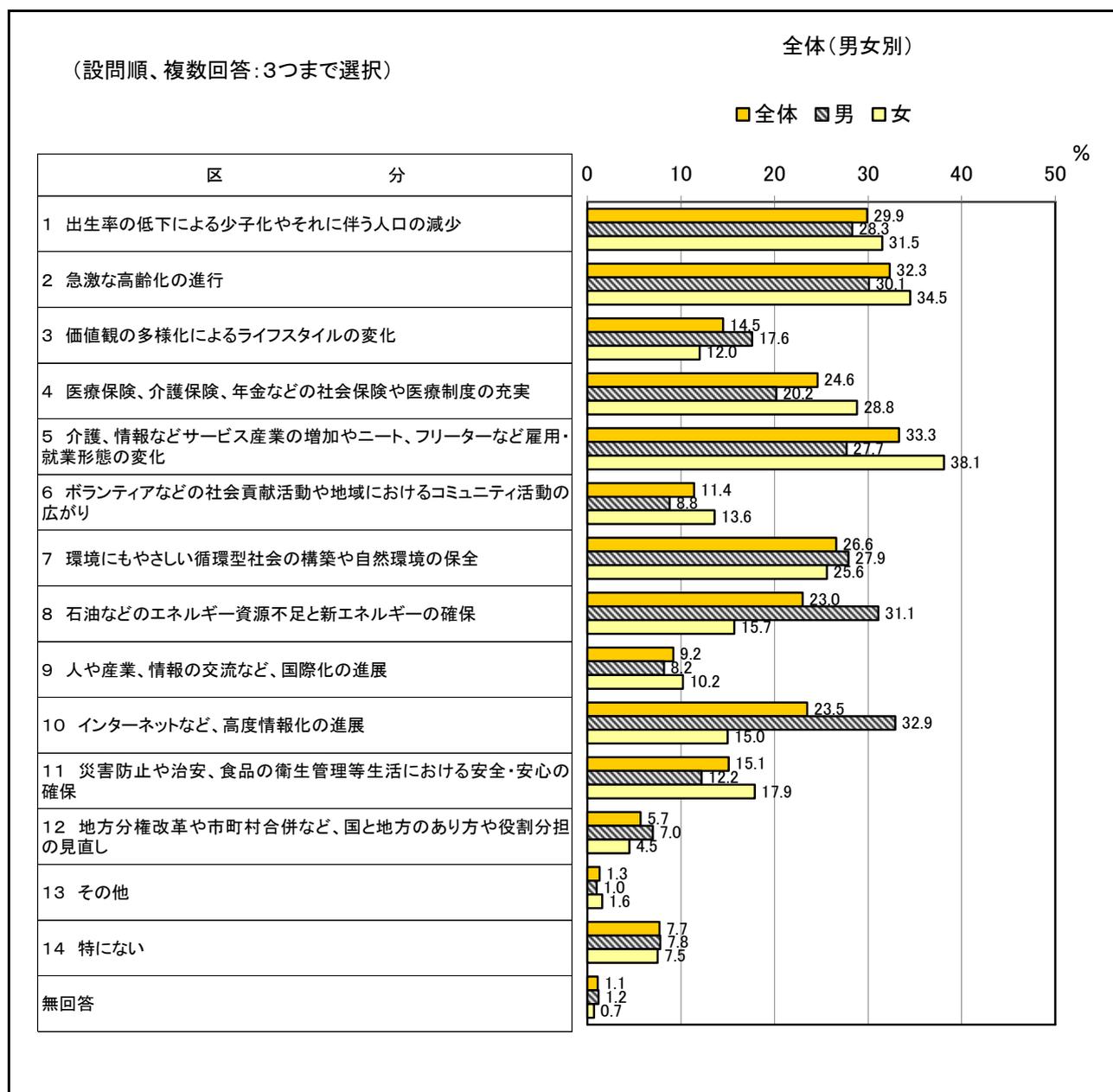
4 あなたやあなたのまわりの人々にとって、これからの“とちぎ”がどのような地域であつたら良いと考えますか。



全体では、「10 買い物や娯楽サービスなどが楽しめるにぎわいのある地域」が43.8%と最も多く、次いで「2 お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」(30.6%)、「1 安心して子どもを産み育てられる地域」(29.5%)となっている。

男女別では、「15 防犯や防災対策等が整った安全で安心して暮らすことのできる地域」を選択した女性が24.2%と男性の16.4%を上回っており、「2 お年寄りも心や身体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」も比較的開きがある。一方、「5 勉強や研究、スポーツや文化、芸術活動などが活発な地域」を選択した男性が29.1%と女性の17.7%を大きく上回っており、「7 新しい事業にチャレンジできる産業活動が活発な地域」も上回っている。

5 今後の社会情勢の変化やその対策について、あなたは何に関心を持っていますか。



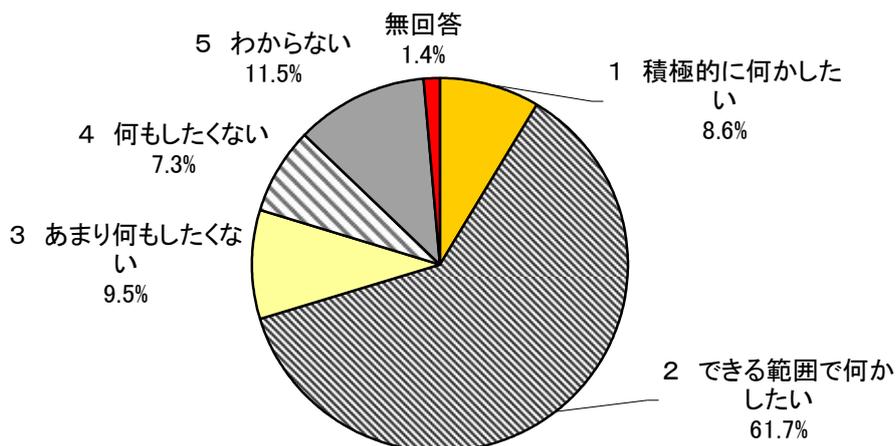
全体では、「5 介護、情報などサービス産業の増加やニート、フリーターなど雇用・就業形態の変化」が 33.3%と最も多く、次いで「2 急激な高齢化の進行」(32.3%)、「1 出生率の低下による少子化やそれに伴う人口の減少」(29.9%)となっている。

男女別では、「5 介護、情報などサービス産業の増加やニート、フリーターなど雇用・就業形態の変化」「4 医療保険、介護保険、年金などの社会保険や医療制度の充実」など医療・福祉関連を選択した女性は男性を上回っていた。一方、「10 インターネットなど、高度情報化の進展」「8 石油などのエネルギー資源不足と新エネルギーの確保」は男性が大幅に上回っていた。

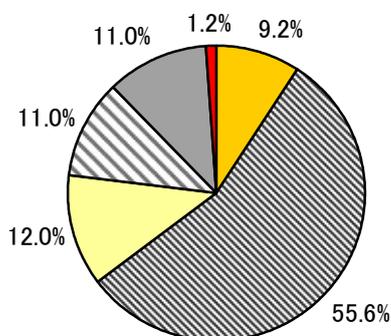
6 魅力ある“とちぎ”をつくっていくためには、行政（県や市町村）だけでなく、これからは、若者の皆さんの果たす役割も大きくなっていくと考えられます。
あなたは、魅力ある“とちぎ”づくりのために、行動していきたいと考えますか。

（設問順、1つ選択）

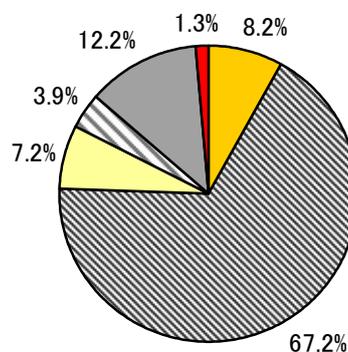
全体



男



女



全体では、「2 できる範囲で何かしたい」が61.7%と最も多く、次いで「5 わからない」（11.5%）、「3 あまり何もしたくない」（9.5%）となっている。「積極的に何かしたい」あるいは「できる範囲で何かしたい」を選択した、参加意向を有している者の割合は70.3%となっている。

男女別では、「2 できる範囲で何かしたい」を選択した女性が67.2%と男性の55.6%を大きく上回っており、男性に比べ女性の参加意向の高さがうかがえる。

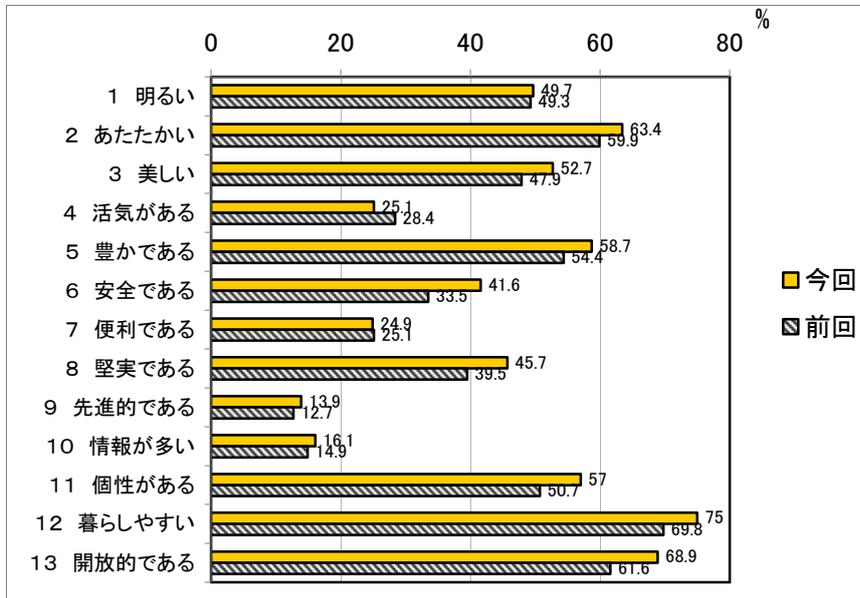
7 経年変化

前回調査（平成16年に実施した若者意向調査）の結果と比較した。

(1) “とちぎ”の現状評価（どのように感じているか）

「そう思う」と回答

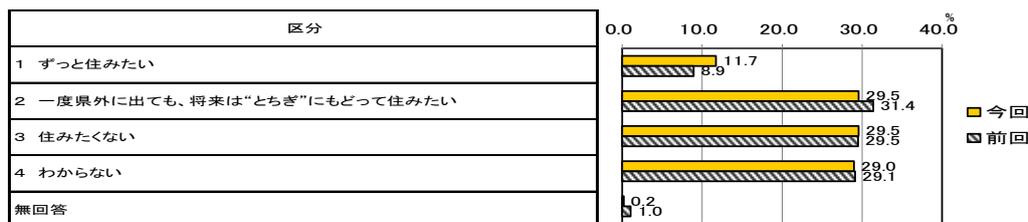
(全体)



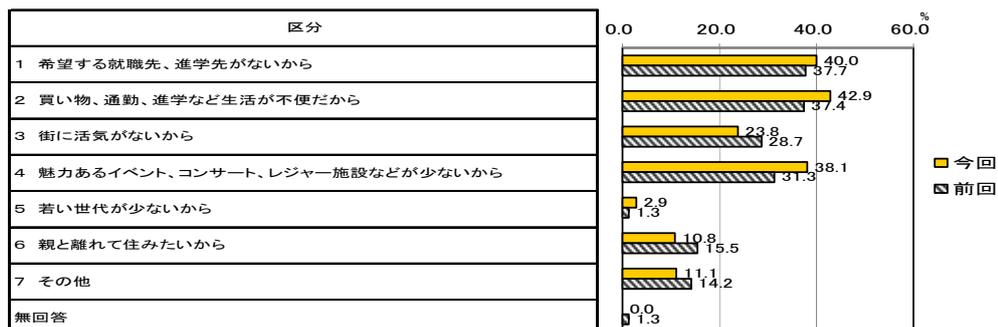
全体傾向を見ると、順位はほとんど変わらず、「12 暮らしやすい」、「13 開放的である」、「2 あたたかい」が上位を占めた。割合は「6 安全である」が比較的大きく増加している。

(2) 将来居住意向（将来も“とちぎ”に住みたいか）

(全体)



「住みたくない」と回答した理由



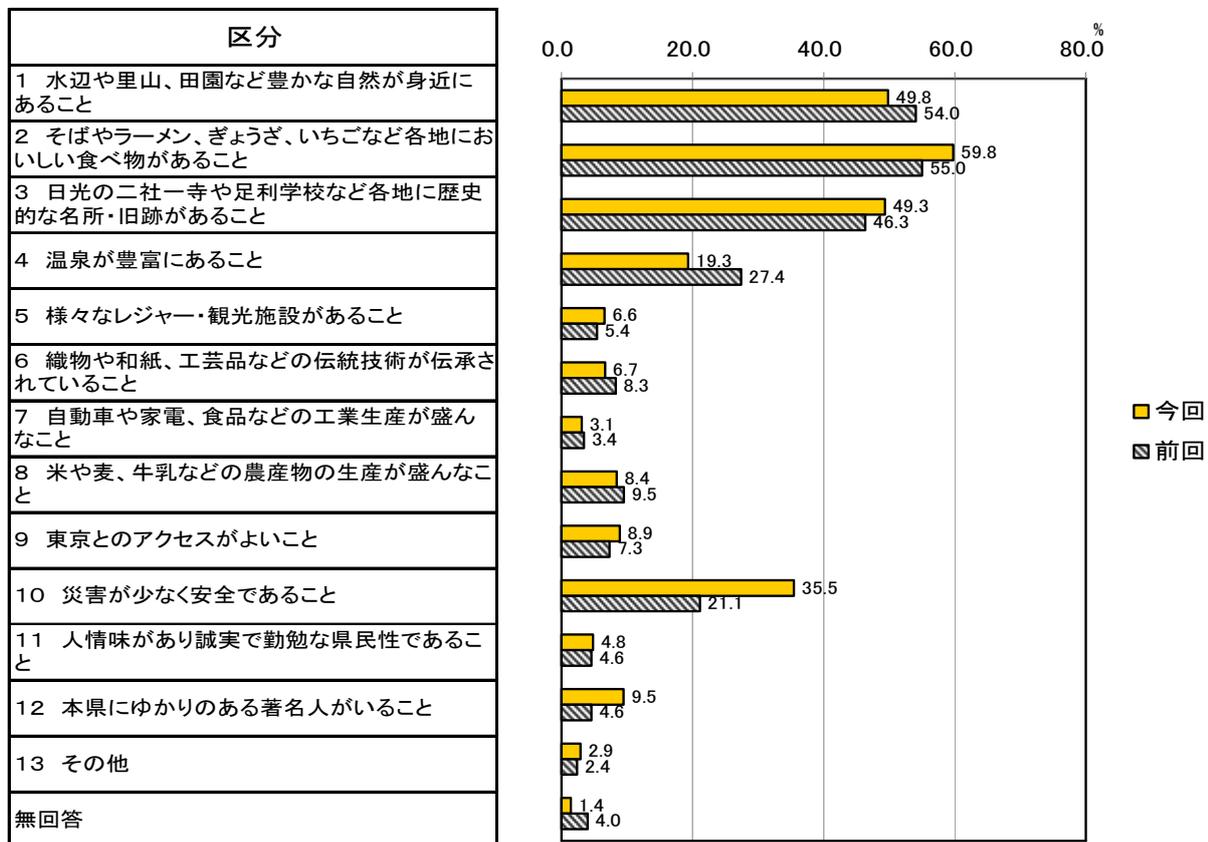
居注意識は、全体では大きな変化は見られなかった。

住みたくない理由としては、前回より「4 魅力あるイベント、コンサート、レジャー施設などが少ないから」、「2 買い物、通勤、進学など生活が不便だから」が増加し、男性での増加が大きかった。

(3) “とちぎ” の特色（誇れるもの、魅力あるもの）

全体で見ると、順位は、上位5位まではほとんど前回と変動はなく、「2 そばやラーメン、ぎょうざ、いちごなど各地に美味しい食べ物があること」、「1 水辺や里山、田園など豊かな自然が身近にあること」、「3 日光の二社一寺や足利学校など各地に歴史的な名所・旧跡があること」が上位を占めた。そのような中「12 本県にゆかりのある著名人がいること」が10位から6位に上昇した。割合は、「10 災害が少なく安全であること」が10%以上増加していたが、「4 温泉が豊富にあること」の減少が目立っている。

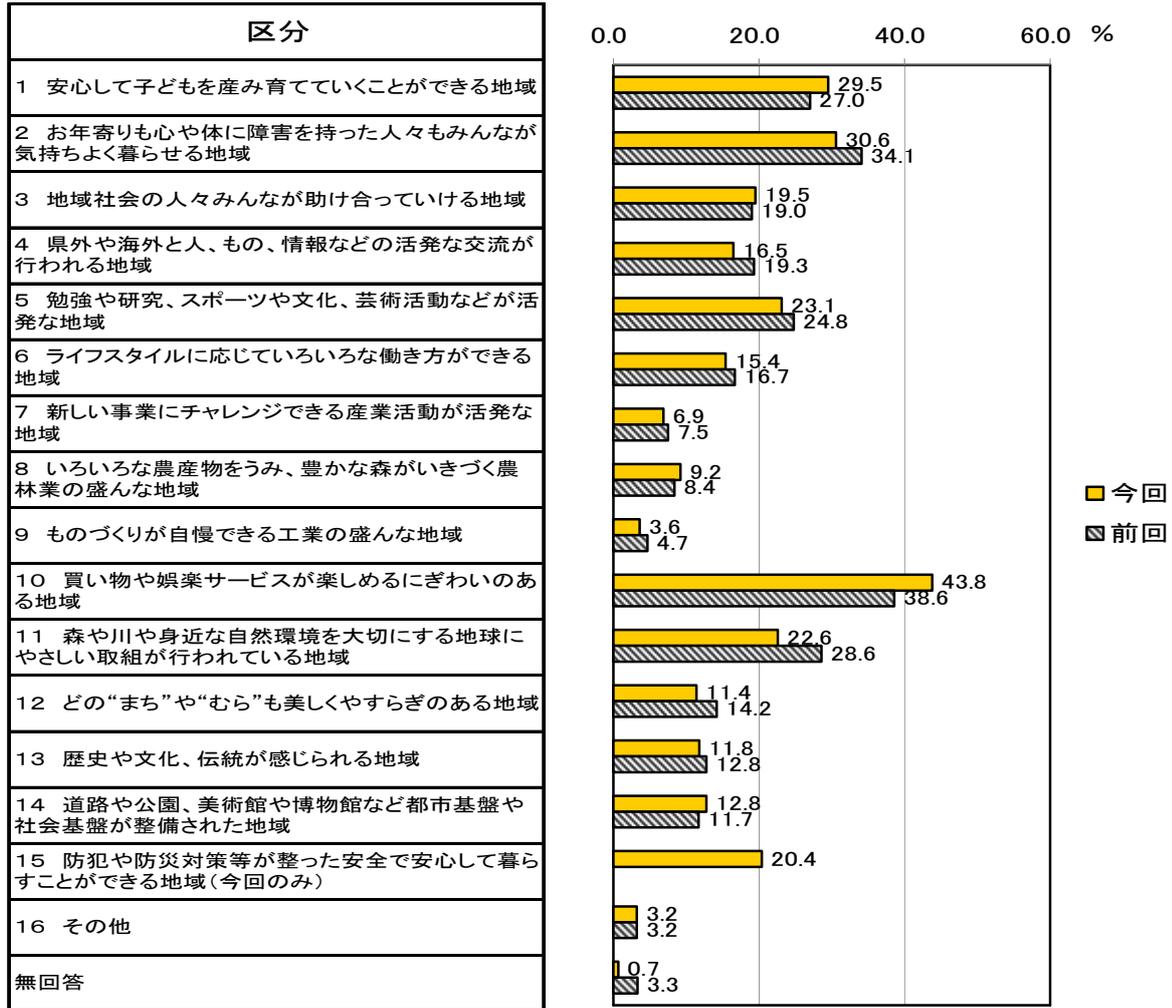
(全体)



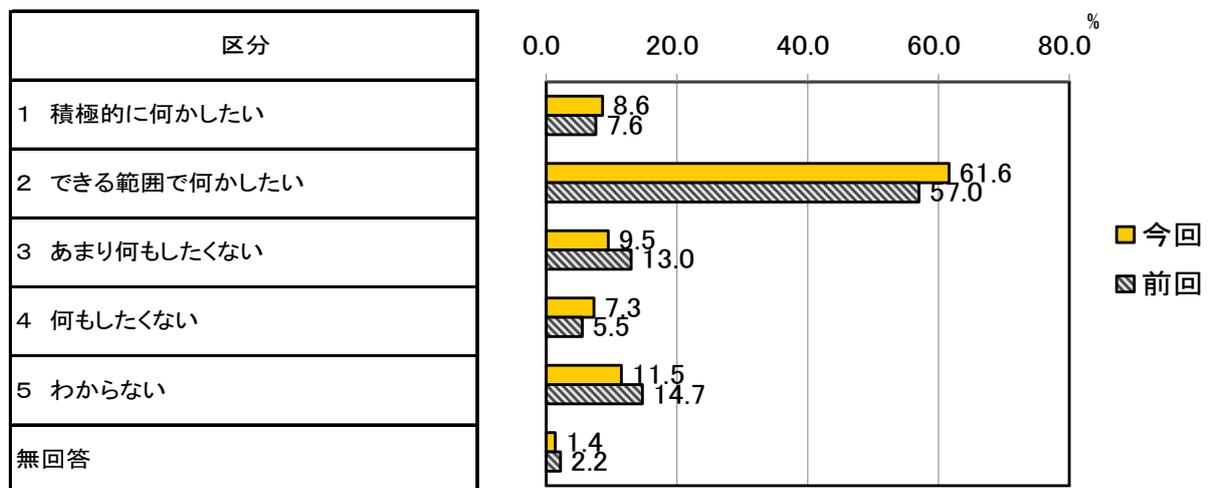
(4) これからの望ましい“とちぎ”の姿

全体で見ると、順位は、上位5位まではほとんど前回と変動はなく、「10 買い物や娯楽サービスが楽しめるにぎわいのある地域」、「2 お年寄りも心や体に障害を持った人々もみんなが気持ちよく暮らせる地域」、「1 安心して子どもを産み育てていくことができる地域」などが上位を占めた。割合は大きな変動はなかった。

(全体)



(5) よりよい“とちぎ”づくりに向けた参加意向



全体、性別ともに、「1積極的に何かしたい」、「2できる範囲で何かしたい」が若干増加し、「3あまり何もしたくない」が減少している。